

21:1 イスラエル人はミツパで、「私たちはだれも、娘をベニヤミンにとつがせない」と言って誓っていた。
 2 そこで、民はベテルに来て、そこで夕方まで神の前にすわり、声をあげて激しく泣いた。
 3 そして、彼らは言った。「イスラエルの神、主よ。なぜイスラエルにこのようなことが起こって、きょう、イスラエルから一つの部族が欠けるようになったのですか。」
 4 翌日になって、民は朝早く、そこに一つの祭壇を築き、全焼のいけにえと和解のいけにえをささげた。
 5 そこで、イスラエルの人々は、「イスラエルの全部族のうちで、主のところの集まりに上って来なかった者はだれか」と言った。彼らがミツパの主のところの上って来なかった者について、「その者は必ず殺されなければならない」と言って、重い誓いを立てていたからである。
 6 イスラエル人は、その兄弟ベニヤミンのことで悔やんだ。それで言った。「きょう、イスラエルから、一つの部族が切り捨てられた。
 7 あの残った者たちに妻をめとらせるにはどうすればよいだろうか。私たちは主にかけて、彼らに娘をとつがせないと誓ったのだ。」
 8 ついで、彼らに言った。「イスラエルの部族のうちで、どこの者がミツパの主のところの上って来なかったのか。」見ると、ヤベシュ・ギルアデからは、ひとりも陣営に、その集まりに、出ていなかった。
 9 民は点呼したが、ヤベシュ・ギルアデの住

民はひとりもそこにいなかった。
 10 会衆は、一万二千人の勇士をそこに送り、彼らに命じて言った。「行って、ヤベシュ・ギルアデの住民を、剣の刃で打て。女や子供も。
 11 あなたがたは、こうしなければならぬ。男はみな、そして男と寝たことのある女はみな、聖絶しなければならない。
 12 こうして、彼らはヤベシュ・ギルアデの住民のうちから、男と寝たことがなく、男を知らない若い処女四百人を見つけ出した。彼らは、この女たちをカナンの地にあるシロの陣営に連れて来た。
 13 それから、全会衆は、リモンの岩にいるベニヤミン族に使いをやり、彼らに和解を呼びかけたが、
 14 そのとき、ベニヤミンは引き返して来たので、ヤベシュ・ギルアデの女のうちから生かしておいた女たちを彼らに与えた。しかし、彼らには足りなかった。
 15 民はベニヤミンのことで悔やんでいた。主がイスラエルの部族の間を裂かれたからである。

イスラエルは勝手な誓いを立てます。1つは「娘をベニヤミン族にとつがせない」というもので、それによってベニヤミン族は滅んでしまうことになります。もう1つは戦いに参加しなかった部族を殺すというものです。これらは勢いに乗って神のみこころを無視して勝手に決めたことでした。
 神なき誓いや計画は、それを強行してゆくもっと大きな過ちを犯すこととなります。イスラエルはヤベシュ・ギルアデの人々を殺し、その娘たちを無理矢理にベニヤミン族の妻として与えたのでした。
 主はベニヤミン族をさばかれましたが、そのた

めに用いられたイスラエルの民も決して主に誉められるようなものではありませんでしたから、主の祝福はありませんでした。主に喜ばれる働き人となれるように、主に祈りみことばをいただき、主の栄光となるように前進しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

